

職	任	部	官制職高	課	長	長	部
	江		長	長	長	長	部

昭
十九年度
師團歴史
(巻末)

冬期 一月四日 - 十日

訓練 隷下部隊一部兵力ヲ參加セシメ通化附近

ニ於テ「スキー」權 第二次冬期訓練ヲ實施

施ス

第一方面軍 一月七日 - 八日

司令官 山下軍司令官 第二次冬期訓練視察

來通 爲來通セラル

昭和十四年十二月奉天 永田特

歩兵團司 一月十一日

一月十四日

隷屬 二月十四日

轉 移 關總作命申第三三五號ニ依リ師團ハ第一方面軍ノ隷

下ヲ脱シ第三方面軍ノ隷下ニ入ラシメラル

1210
1211
1212

步兵團司 一月十一日

一月十四日

火 災 七時五十分 師團防疫給水部自動車廠より

出 火 車 廠 一 棟 自 動 貨 車 三 輛 修 理 用 部 品

衛 生 材 料 若 干 焼 失 八 時 五 十 分 鎮 火 ス

昭和十四年十二月 奉天 永田納

1210
1211
1212

歩兵團司令 一月十一日

司令部復歸 軍令陸甲第一二五號ニ依リ第三十八歩

兵團司令部復歸 セシメラル

團隊長 一月十六日

會 同團隊長ヲ會同シ昭和十九年度教育ニ關シ

指示ス

冬期訓練 二月十日ー二十日

昭和十四年十二月奉天 永田納

1210
1211
1212

訓示二月二十日

第一方面軍司令官及第三方面軍司令官ヨリ左記訓

示受領ス

左記

第一方面軍司令官訓示

惟フニ第二十八師團ハ當部隊編成セラレテ以來
帝ニ唯一直轄兵團トシテ至猛ノ教育訓練ニ
將又苦難ノ國境警備ニ能ク本職ノ期待ニ
應ヘタルノミナラス有事ノ日其ノ精強ニ俟ツトコ
口極メテ大ナルモノアリシニ拘ラス今據ニ袂ヲ別
タサルヘカラサルニ至リタルハ寔ニ惜別ノ情ニ堪ヘサ
ル所ナリ而シテ師團創設以來營々努力ヲ訓

練ノ精華ハ新ナル任務ニ處シ克ク其ノ眞價
 ヲ發揚シテ此ノ遺憾ナカルヘキハ本職ノ深ク
 信シテ疑ハサル所ナリ
 北翼ク深ク戦局ノ推移ノ二稽ヘ審ニ時局ノ進
 展ヲ察シ新任務ニ向ヒ更ニ一段ノ努力ヲ
 傾注センコトヲ寒氣尚嚴シキノ候將兵各々
 自重自愛健康ヲ保全シ武運愈々隆昌
 ナラムコトヲ祈リテ熄マス
 第三方面軍司令官訓示
 茲ニ精銳ナル第七八六部隊ヲ麾下ニ迎ヘ戦
 カニ一大減力ヲ加ヘタルハ本職ノ衷心欣快ト
 シ深ク期待スル所ナリ
 惟フニ第七八六部隊ハ創設以來既ニ歳ヲ經
 歴代兵團長ノ熱誠眞摯ナル統率ノ下日

昭和十四、九、鐵嶺龍嶽納

夜團結ノ鞏化ニ教育練成ニ邁進シ其ノ
精強期シテ待ツヘキモノアルハ本職ノ確信
スル所ナリ

然レトモ今ヤ大東亞戰ハ眞ニ皇國ノ興廢ヲ
決スヘキ重大機局ニ直面シ北邊ノ情勢亦
一刻ノ儉安ヲ許ササルニ鑑ミ更ニ一段ノ精強
ヲ加ヘ彌カトニモ出帥準備ヲ完整スルノ要極
メテ切ナリ

將兵一同益々軍紀ヲ更張シ愈々團結ノ鞏化
ト訓練ノ精到トニ邁進シ以テ有事即應ニ績
憾無キヲ期スヘシ

本職統率指導ノ企圖ニ關シテハ曩ニ隸下
諸隊ニ訓示セルトコロニ遵由スヘシ
尚部隊今後ノ嚮フヘキ細項ニ關シテハ別ニ示ス

